

さ やすふるじま い せき
座安古島遺跡



座安古島遺跡

座安古島遺跡は県営渡橋名団地の北西側、座安集落の北東側にある標高約64mの丘陵に立地する「渡橋名グスク」の北側斜面の畑地に存在します。渡橋名グスクは地元で別名「渡橋名御嶽」ともいわれ、拝所や井泉（カー）等がありますが、城壁等の防御施設は見られません。

『豊見城市史』によると、古い時代に座安と下座安が合併して、現在の字座安と字渡橋名が形成したと記され、古い時代の座安は遺跡が存在する一帯にあり、下座安は現在の座安付近で遺跡一帯にいた人々が下座安と渡橋名に移動して現在の座安と渡橋名集落を形成したと記されます。

現在、遺跡が存在する一帯は畑地となっており、グスク土器、輸入陶磁器（青磁、白磁、染付陶器）などが採集されます。その他、食糧にしていたと思われる貝や牛、馬の骨が採集されています。

